

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテを利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】：集中治療室における医薬品適正使用に向けた薬学的介入の評価

【研究目的】

集中治療室(以下:ICU)は、通常の医療設備では十分管理できない重い病気や大手術後の患者さんに対して、24時間体制で体調管理・治療を行う部門です。また、集中治療を必要とする患者さんの多くは、手術の傷があること、血管や尿道に管を入れること、機器によって呼吸を補助することなどにより、感染症を起こす可能性が高く、より安全で効果的な薬物治療への関わりが必要な状態といえます。現在、ICUにおいて薬の適正使用を含む薬物治療へ関わっている専任薬剤師の業務は施設の状況や他職種からの要望により、画一したものではなく、施設ごとにより効果的かつ効率的な業務内容が検討されている状況です。

そこで本研究では、ICUにおいて薬剤師が行った薬の適正使用や薬物治療への関わりによって患者さんの状態がどのように変化したか調査することにより、その関わり方の見直しを行うことを目的とします。さらに、抗菌薬に着目して、ICUにおけるチーム医療を推進するなかで、積極的な処方提案が臨床症状の改善に及ぼす影響について検討します。

【研究意義】

病棟専任薬剤師がICUに常駐し、薬の管理や提案をすることによる効果を検証した調査によると、ICU専任薬剤師が薬の治療内容の確認を行うことで、薬の適正な使用に貢献できることが示唆された報告や、薬の専門家としての助言や指導を行うことで、病棟に置いている薬の数、在庫金額、薬の請求漏れを減少させ、患者さんへの薬の説明件数の増加をもたらしたと報告されています。今回の検討において、愛媛大学医学部附属病院のICU専任薬剤師の業務を評価することで、薬剤師業務が患者さんのICU入室日数の短縮、重症度の改善などの症状の早期改善に繋がる可能性を検証します。

【対象となる患者さん】

2017年1月～2018年1月までの期間に愛媛大学医学部附属病院においてICUに入室になった入院患者さん。

【方法】

調査の対象となる患者さんの電子カルテから、以下の項目を調査します。

年齢、性別、原疾患名、ICU入室期間(日数)、ICU重症度分類、薬品名、投与量、投与日数、血清Cr、

eGFR、体温、CRP、プロカルシトニン、血中乳酸値、WBC、PLT、副作用発現有無と重症度(CTCAE 分類)、DIC 発症の有無(DIC スコア)、ATIII、PT 時間、血清 FDP

【個人情報の取り扱い】

収集した情報は名前、住所など患者さんを直接特定できる個人情報を除いて匿名化いたします。個人を特定できるような情報が外に漏れることはありません。また、研究結果は学術雑誌や学会等で発表される予定ですが、発表内容に個人を特定できる情報は一切含まれません。

【研究実施体制】

研究機関：愛媛大学医学部附属病院 薬剤部

研究責任者：助教 飛鷹 範明

研究分担者：

薬剤部主任 檜垣 宏美

薬剤師 木村 博史

薬剤師 矢野 賢明

松山大学薬学部

教授 岩村 樹憲

助教 久次米 永子

准教授 坂本 宜俊

実習生 富士川 尚礼

【研究に関する問い合わせ先】

本研究からご自身の情報を除いて欲しいという方は、下記の連絡先までお申し出下さい。また、本研究に関する詳細な資料を希望される方や詳細な情報を知りたい方は、下記の連絡先まで連絡をお願いします。他の患者さんの個人情報の保護および知的財産の保護等に支障がない範囲でお答え致します。

研究責任者：飛鷹 範明

791-0295 愛媛県東温市志津川

電話番号：089-960-5744

e-mail: noridah@m.chime-u.ac.jp